

平成28年度

環境報告書



国立研究開発法人

国立精神・神経医療研究センター

National Center of
Neurology and Psychiatry

独立行政法人国立精神・神経医療研究センターは、脳とこころ、神経と筋肉、発達障害などの病気を克服するために作られたナショナルセンターです。

1	理事長挨拶	2
2	国立精神・神経医療研究センターの概要	3
3	環境配慮の基本方針	5
4	環境配慮の計画と具体的な取り組み	5
5	環境配慮の取り組み状況	6
	(1) エネルギー資源投入量	6
	(2) 紙資源（コピー用紙）購入量	9
	(3) 水資源投入量	10
	(4) 温室効果ガス排出量	11
	(5) 廃棄物の適正処理	13
	(6) グリーン購入・調達状況	14
	(7) その他環境に関する取り組み	15

理事長挨拶



当センターは、精神・神経・筋肉疾患、発達障害の4つの領域の研究開発をミッションとし、精神と神経、臨床と研究を一体化した世界的にもユニークなセンターであり、研究所と病院が密接に連携して、治療の難しい精神・神経疾患などの病気の原因の解明、診断法の確立、新しい治療法の開発、モデルとなる医療の提供、そして精神保健全体の向上に取り組んでおります。

また、センター病院では病気で闘っておられる患者さんが一日も早く病気を克服出来るよう、先進的な医療を提供しております。

環境汚染への対策は、日本のみならず 2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」においても課題として挙げられ、持続可能な発展目標（Sustainable Development Goals, SDGs）にも盛り込まれており、全世界的な課題として取り組む必要があります。当センターと致しましても、事業活動を実施するにあたり、本務である脳とこころの健康の維持、増進は勿論、環境に配慮した事業活動を行うことを目的とした環境配慮促進法に基づき、環境配慮の基本方針を定め、省エネルギー、省資源の取り組み、環境物品等の積極的な調達など、環境負荷の低減に取り組んでいるところです。

このたび、平成 28 年度における当センターの事業活動における取り組み状況を「平成 28 年度環境報告書」として取りまとめました。

今後とも、環境保全に関する取り組みを一層充実させて参りたいと考えておりますので、皆様方のご理解とご支援のほど宜しくお願いします。

国立研究開発法人

国立精神・神経医療研究センター

理事長 水澤 英洋

センター概要

国立精神・神経医療研究センター（NCNP）概要

名称： 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
 所在地： 〒187-8551 東京都小平市小川東町 4-1-1
 沿革： <http://www.ncnp.go.jp/guide/history.html>
 理事長： 水澤 英洋

基本理念

病院と研究所が一体となり、精神疾患、神経疾患、筋疾患、及び発達障害の克服を目指した研究開発を行い、その成果をもとに高度先駆的医療を提供するとともに、全国への普及を図ることを使命としております。

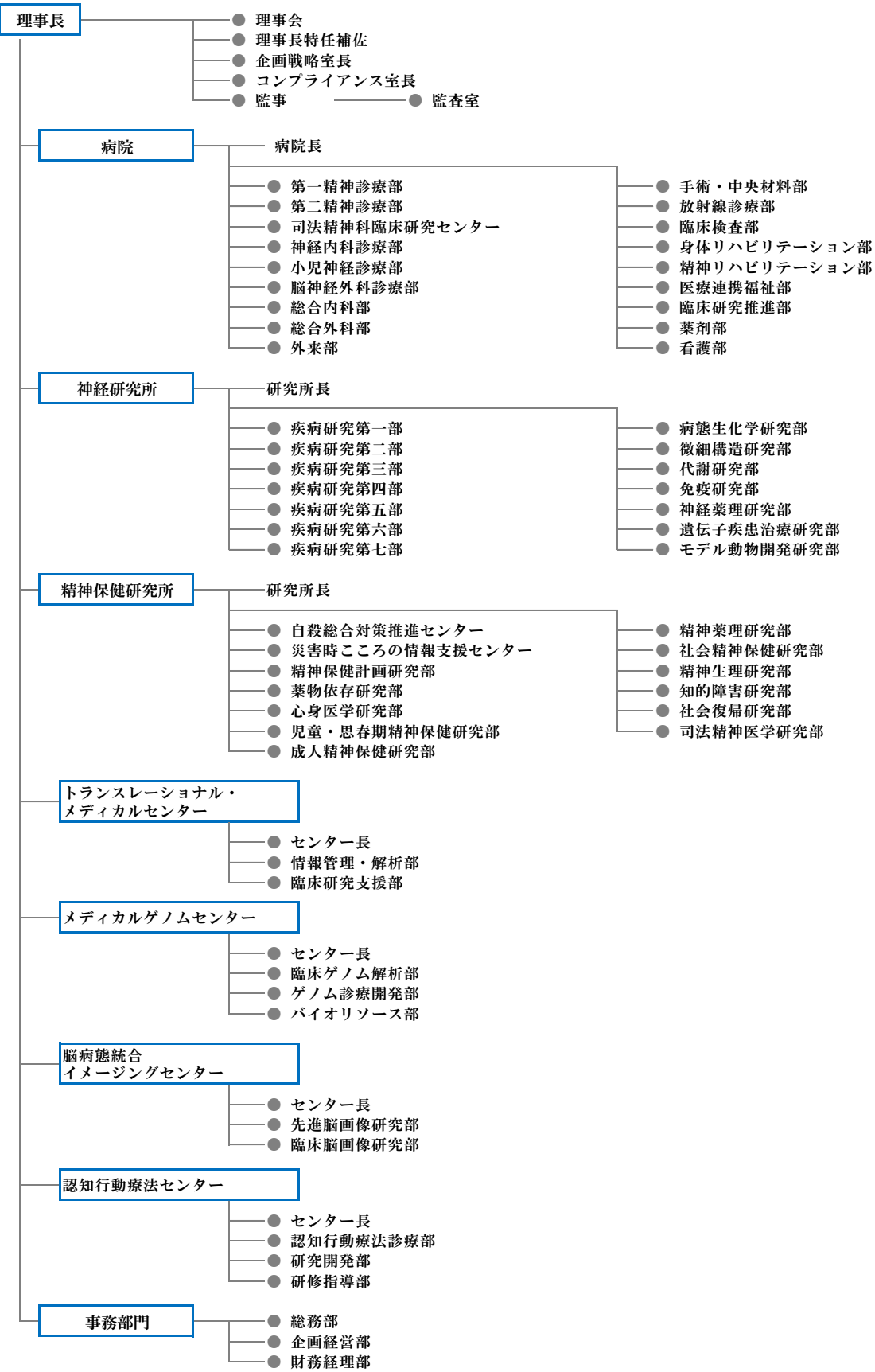
センターマップ



NCNP へのアクセスは、HP の「交通のご案内」をご覧ください。

<http://www.ncnp.go.jp/access/index.html>

組織図



環境配慮の基本方針

1 省エネルギーの推進に努める

2 地球温暖化対策に努める

3 省資源化の推進に努める

4 廃棄物の適正管理・減量化の推進に努める

環境配慮の計画と具体的な取り組み

1 省エネルギー・省資源化を推進し、環境負荷の低減に努めます！

- (1) 軽装の励行
- (2) 冷暖房の適温設定、節水の励行
- (3) 紙資源の節減
- (4) コージェネレーションシステムの活用

2 環境物品の調達（グリーン購入）、リサイクルの推進に努めます！

- (1) 調達物品の環境配慮
- (2) 廃棄物のリサイクルの推進

3 高効率の設備などの積極的な導入に努めます！

- (1) 省エネルギー設備の導入
- (2) 遮熱フィルムの活用

環境配慮の取り組み状況

(1) エネルギー資源投入量

国立精神・神経医療研究センターにおける平成28年度のエネルギー資源投入量については、前年度比で都市ガスが増加となり、電力、A重油、ガスLPGは減少となりましたが、平成28年度の総エネルギー消費量は増加しております。

今後も、更なるエネルギー消費の削減と費用の節減に努め、地球温暖化抑制に努めてまいります。

総エネルギー消費量（熱量換算：単位GJ）

	都市ガス	電力	A重油	ガスLPG
平成24年度	154,755	174,538	1,838	965
平成25年度	161,100	170,567	3,284	864
平成26年度	159,570	174,213	938	1,031
平成27年度	150,030	176,918	1,251	909
平成28年度	160,605	175,731	587	864
対前年比	107.0%	99.3%	46.9%	95.0%

[熱量換算 単位 GJ ギガ・ジュールとは]

使用した各燃料等を国際標準の熱量換算係数を用いて換算後、発熱量1ギガ・ジュールを原油0.0258キロリットルとして換算した、総エネルギー消費量を表す際の発熱量単位。

[換算係数]

都市ガス・・・13A:45GJ/千m³

電力昼・・・9.97GJ/kwh

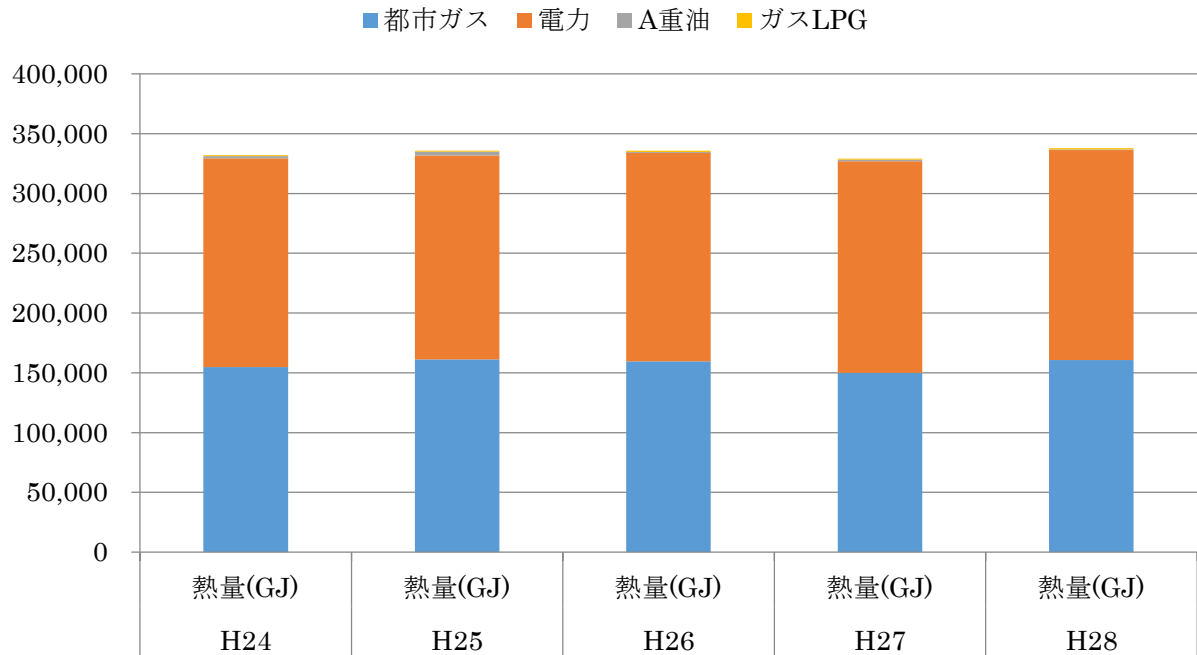
電力夜・・・9.28GJ/kwh

A重油・・・39.10GJ/KL

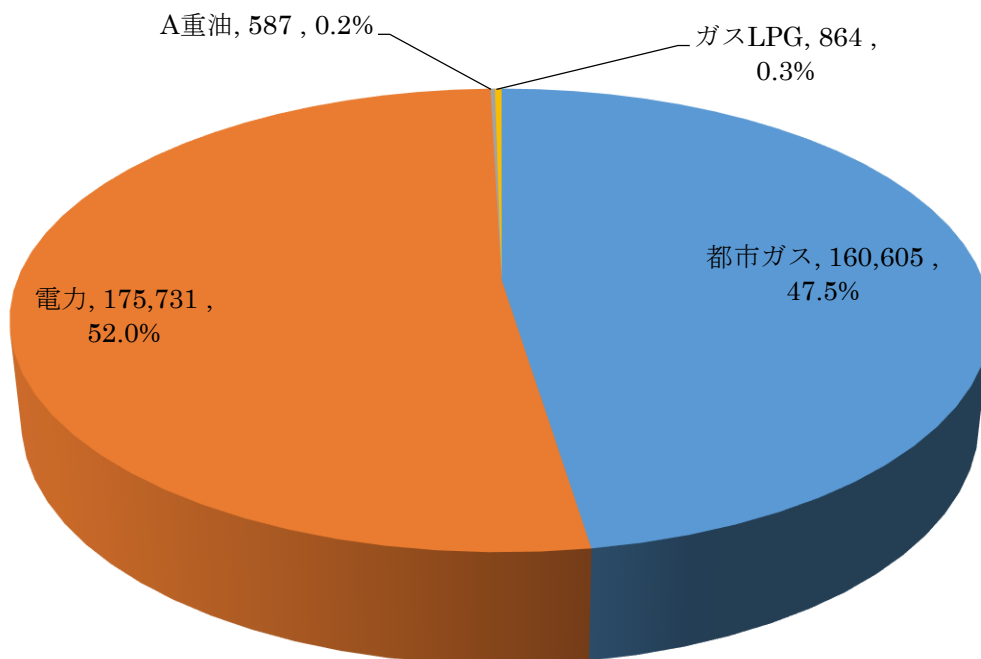
ガスLPG・・・50.80GJ/千m³

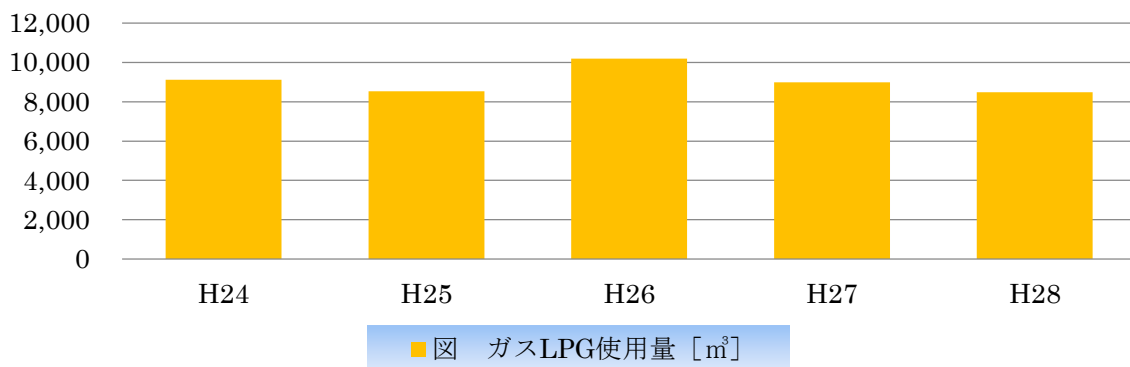
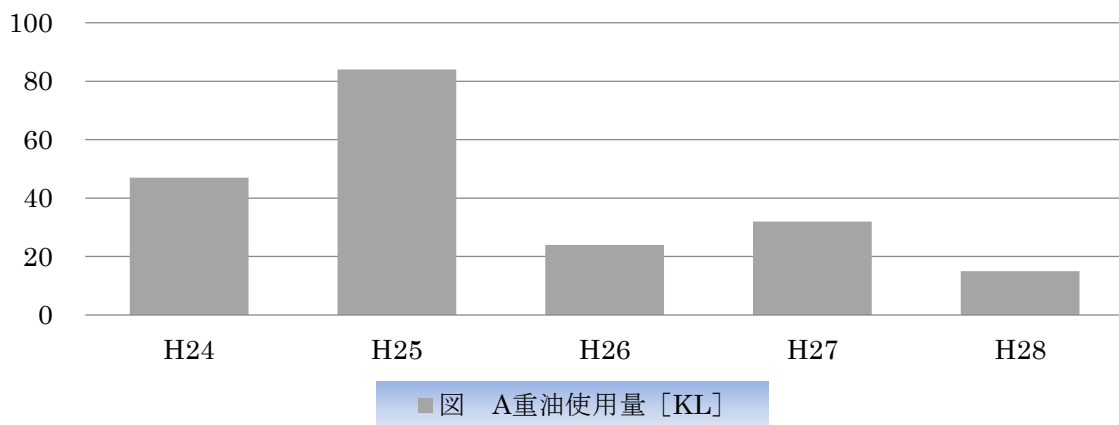
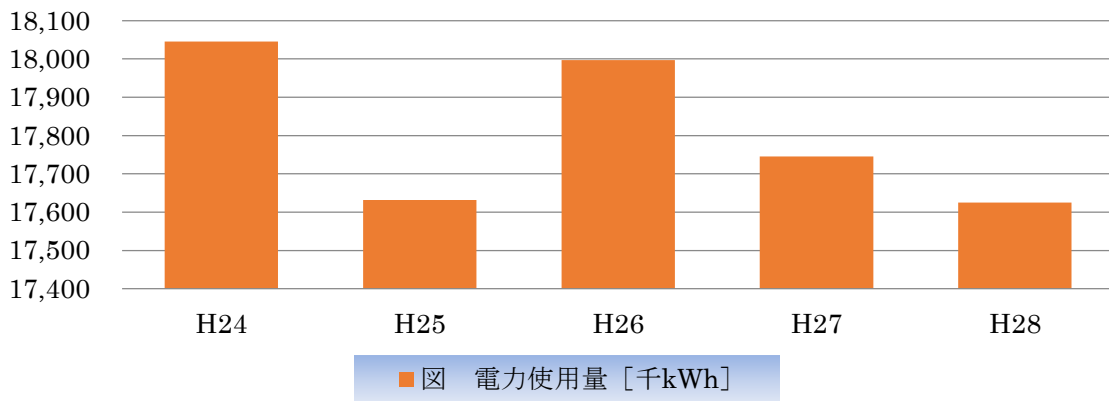
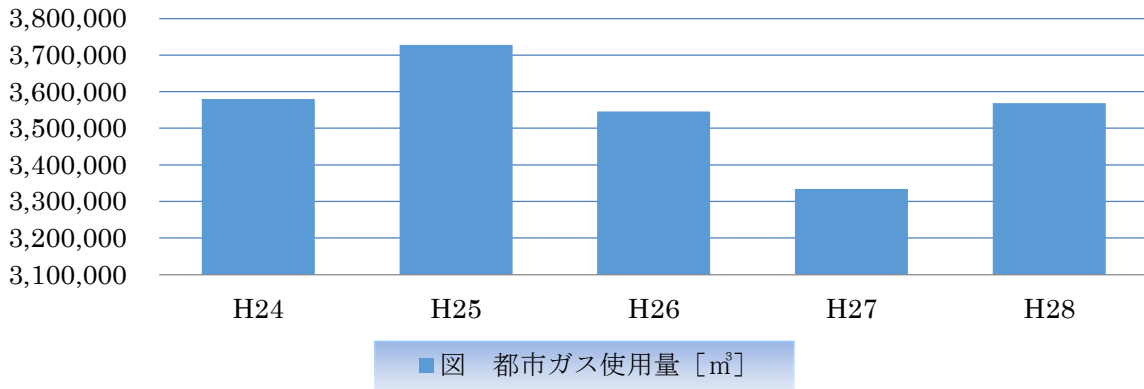
※平成28年度の電力換算係数については、総電力使用量に対して昼間の換算係数を用いているため、昨年度と比較し増となっています。

[年度推移]総エネルギー消費量[熱量GJ]



[平成28年度] 総エネルギー消費量[熱量GJ]





(2) 紙資源(コピー用紙)購入量

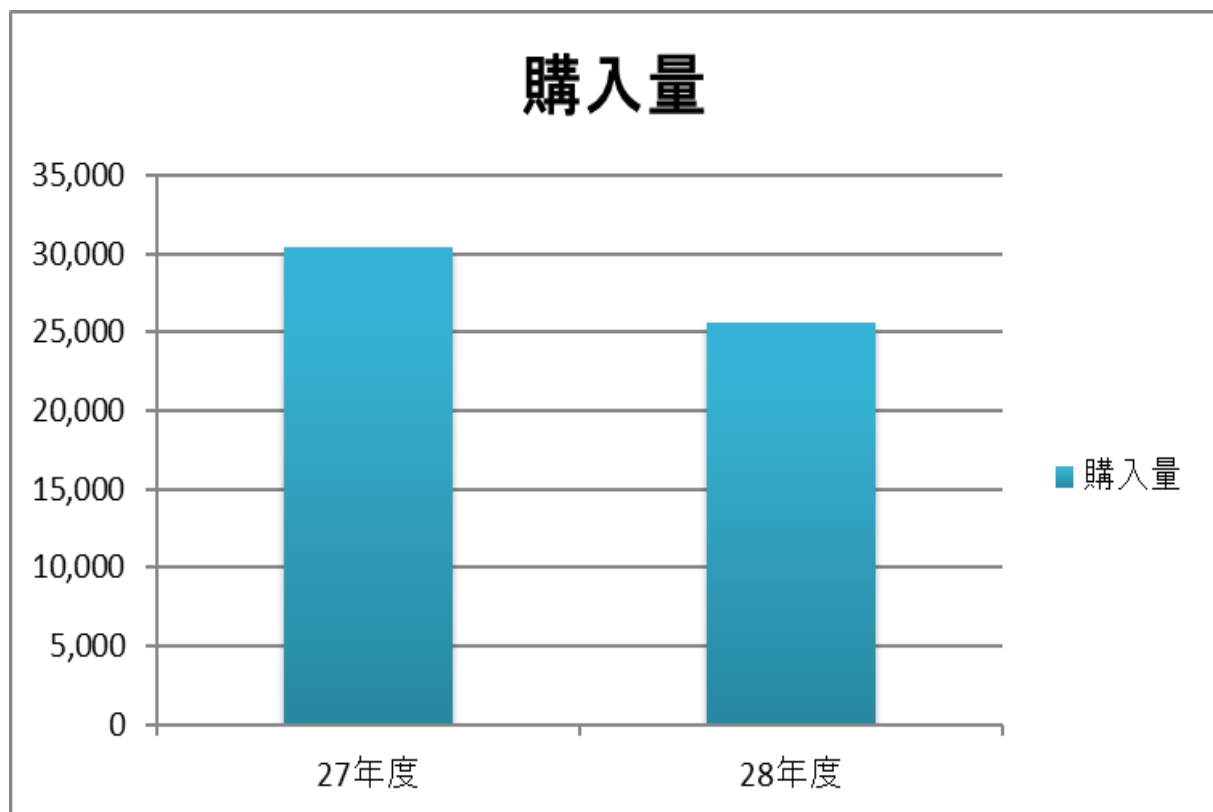
国立精神・神経医療研究センターにおいては、限られた紙資源の有効利用や経費削減のため、会議資料等の両面印刷やミスコピー等の再利用を進めてきました。また、平成22年9月よりセンター内グループウェアを導入し、電子掲示板等の活用によるペーパーレス化の推進等、併せてコピー用紙の節減を励行して参りましたが、平成28年度においては購入量が減少し、前年度比15.7%（調達重量ベース）の減となりました。

今後も、環境負荷の低減や費用削減の観点から、両面印刷の励行やミスコピーの再利用及び電子掲示板等の活用による積極的なペーパーレス化の推進等、節減に努めてまいります。

コピー用紙購入量（A4換算）

	27年度	28年度	対前年度比
調達重量 (kg)	30,408	25,635	84.3%
調達数量 (枚)	7,601,875	6,408,750	84.3%

※ 上記データは購入量ベースで把握したものであり、実際の使用量だけでなく在庫分も含む。



(3) 水資源投入量

国立精神・神経医療研究センターにおける平成 28 年度の水資源投入量については、平成 24 年度に井戸 2 本使用に切り替えを行ったことにより、上水使用量は大幅に減少し、井戸水使用量は増加となっています。

当センターは、敷地内に井戸を 2 本保有しています。平成 23 年度までは井戸 1 本のみの利用でしたが、平成 24 年度から井戸 2 本を利用できる環境が整い、上水道から井戸水への切り替えを行いました。また、今後も上水道使用量の削減を推進するとともに、全体使用量の削減についても職員等へ節水を呼びかけるなどして推進します。

水資源投入量（単位：m³）

	上水道		井戸水
	上水	下水	
平成 24 年度	61,345	52,609	180,209
平成 25 年度	8,502	8,502	218,794
平成 26 年度	2,331	2,331	217,525
平成 27 年度	6,644	6,644	200,686
平成 28 年度	4,348	4,348	181,363
対前年比	65.4%	65.4%	90.4%

※上水及び下水は市水使用量を表し、井戸水には下水量が含まれます。

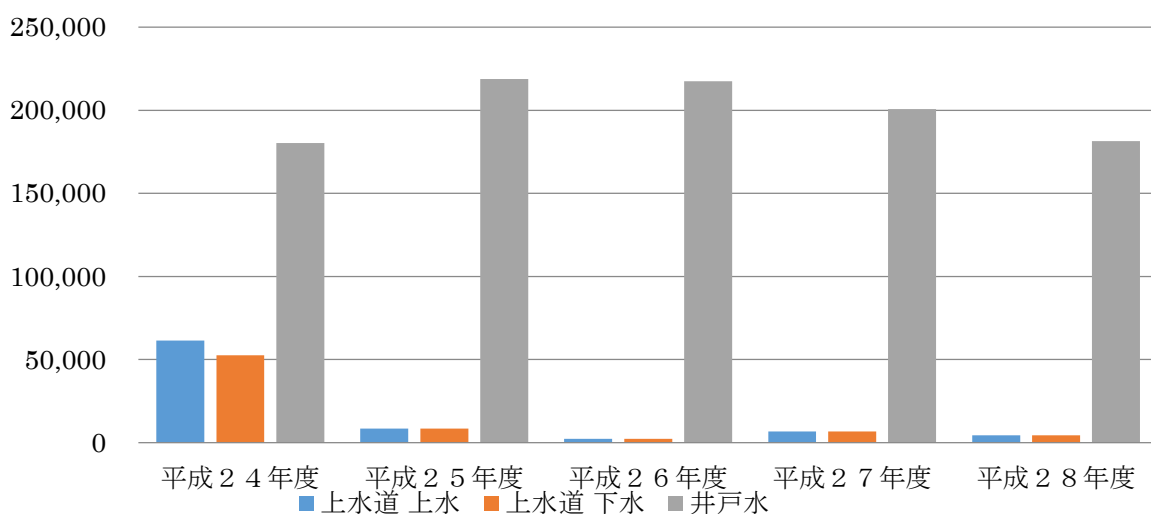


図 上下水道・井戸水使用量 [m³]

(4) 温室効果ガス排出量

国立精神・神経医療研究センターは、平成17年度から平成19年度の平均温室効果ガス排出量を基準年度として、温室効果ガスの排出量を東京都環境確保条例で定められている削減量に削減することを目標としています。

当センターの温室効果ガス排出量については、都市ガスは前年度比で増加しましたが、電力、A重油及びガスLPGは減少しました。しかし、平成28年度の全体の温室効果ガス排出量は増加となってしまいました。

今後は、目標値である温室効果ガス排出量の削減に向け、更なる節減を検討した上で、排出抑制策に取り組み、地球温暖化の抑制に努めてまいります。

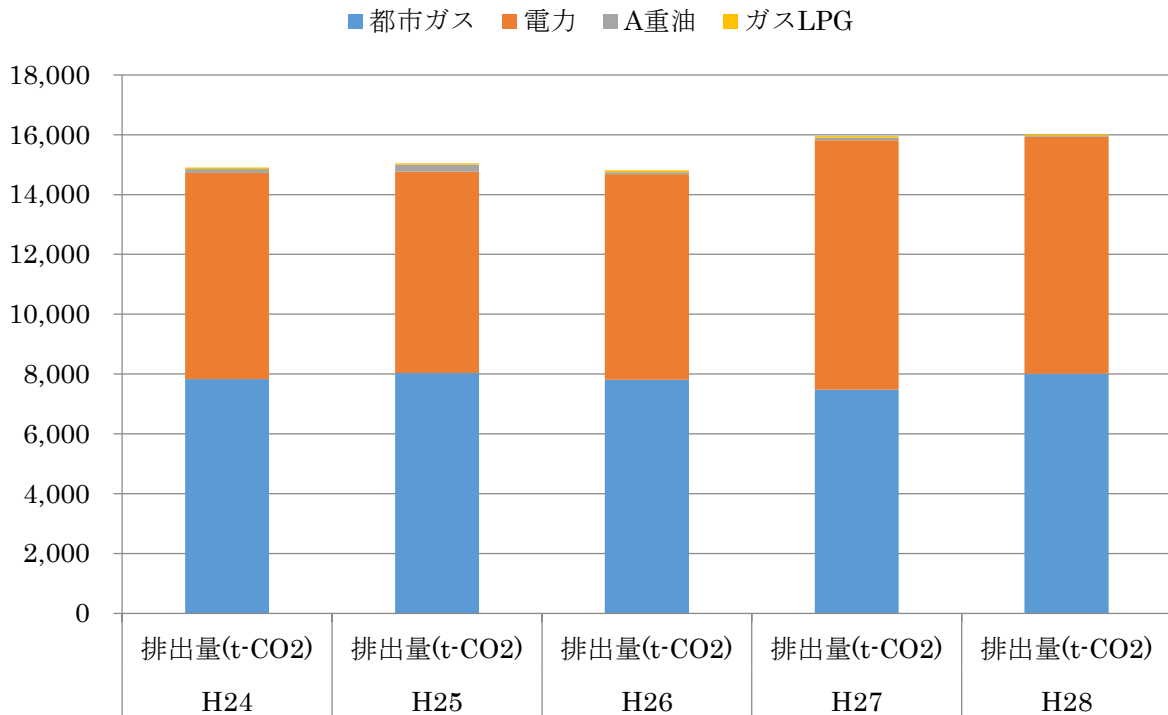
温室効果ガス排出量（排出量換算：単位 t-CO₂）

	都市ガス	電力	A重油	ガスLPG	総計
平成24年度	7,831	6,893	127	58	14,909
平成25年度	8,034	6,735	228	51	15,048
平成26年度	7,804	6,875	65	64	14,808
平成27年度	7,481	8,329	87	54	15,951
平成28年度	8,009	7,921	41	51	16,022
対前年比	107.1%	95.1%	47.1%	94.4%	100.5%

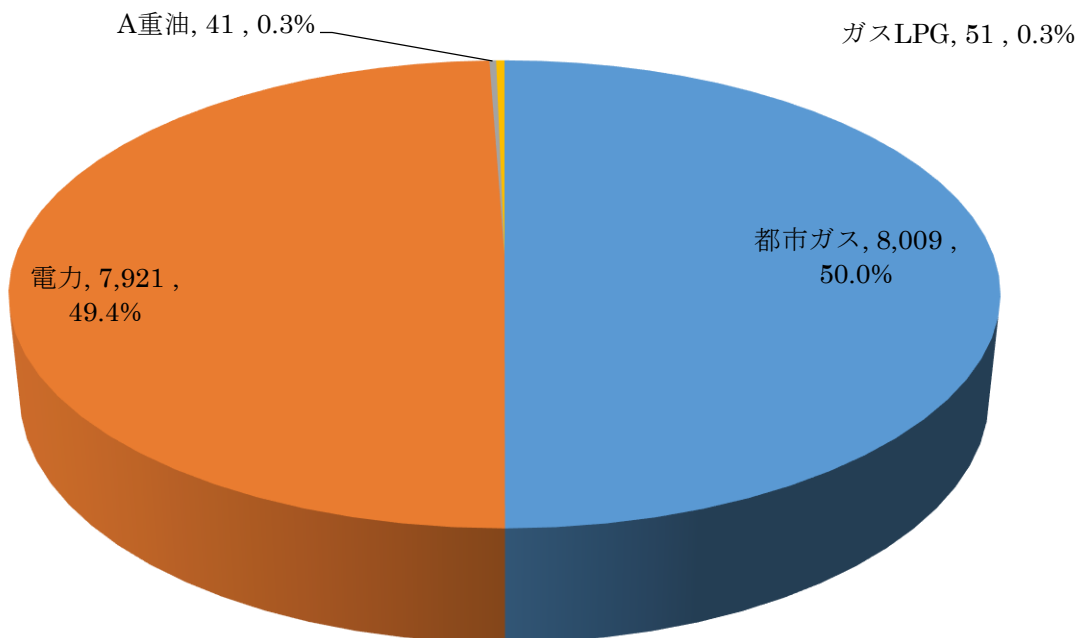
[排出量 単位：t-CO₂ トン・シーオーツーとは]

各燃料等の使用に伴う二酸化炭素その他の温室効果ガスの排出の量を、排出係数を用いて相当する温室効果を有する二酸化炭素の重量に換算した単位。

[平成28年度推移] 温室効果ガス排出量 [t-CO²]



[平成28年度] 温室効果ガス排出量(t-CO²)



(5) 廃棄物の適正処理

廃棄物は事業系ゴミとなるため、一般の家庭から排出される廃棄物の取り扱いとは異なります。廃棄物は大きく一般廃棄物（可燃・不燃ごみ）と産業廃棄物（医療系廃棄物等）に分類されます。

当センターは、医療安全体制を整備するとともに特に感染性廃棄物の搬出・処理の過程において感染事故が発生しないよう努めています。

感染性廃棄物は、他の廃棄物に混入しないように排出する際に専用のダンボール箱又はポリ容器を使用し、その管理には万全を期しています。



	一般廃棄物	感染性廃棄物	資源ゴミ	計
平成 24 年度	247,973	66,001	15,886	329,860
平成 25 年度	265,543	99,420	19,949	384,912
平成 26 年度	281,170	149,684	25,429	456,283
平成 27 年度	322,425	125,559	27,042	475,026
平成 28 年度	312,455	150,593	23,725	486,773
対前年比	97.5%	119.9%	87.7%	102.4%

4 感染性廃棄物は、各部署から専用のダンボール箱及びポリ容器で搬出され、清掃請負業者によって指定の集積場所に搬入され、集積された廃棄物は、産業廃棄物委託業者が収集運搬・処理を行っております。

その際には、排出量を記載した産業廃棄物管理表（マニフェスト）を交付し、排出から最終処分までの処理が適正に行われていることを確認しています。

また、分別を徹底することにより、再資源化されるもの（びん・缶、ペットボトル、古紙類）について、廃棄物の再資源化の向上に努めております。

(6) グリーン購入・調達状況

国立精神・神経医療研究センターは、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号。以下「グリーン購入法」という。）の趣旨に基づき、環境物品等の調達を推進するため、特定調達品の購入目標値等について「環境調達の推進を図るための方針」を定め、積極的に進めています。

平成28年度における環境物品等の調達実績については、同法第8条第1項の規定に基づき、「平成27年度における環境物品等の調達の実績の概要」を以下のとおり取りまとめ、ホームページ上に公表するとともに、環境大臣に通知しました。

1 平成28年度の経緯

平成28年度については、4月に「環境物品等の調達の推進を図るための方針について」（以下「調達方針」という。）を策定し、これに基づいて環境物品等の調達を推進しました。

2 特定調達品目の調達状況

特定調達品目の調達状況については、下表のとおり。

分野	目標値	環境物品等 調達品目	目標達成 (100%) 調達品目	目標達成率
紙類	100%	3品目	3品目	100%
文具類	100%	44品目	44品目	100%
オフィス家具等	100%	6品目	6品目	100%
OA機器	100%	2品目	2品目	100%
家電製品	100%	0品目	0品目	100%
照明	100%	6品目	6品目	100%
総計	100%	61品目	61品目	100%

3 環境物品等の調達に当たっての配慮の実績

調達方針に基づき、調達する品目に応じて、エコマーク等の既存の情報を活用することにより、判断基準を満たすことにとどまらず、できる限り環境負荷の少ない物品の調達に努めました。

4 特定調達物品等以外の環境物品等の調達状況

特定調達物品等以外の物品等の調達に当たっては、調達方針に準じて、エコマーク等の認定を受けている製品又はこれと同等の環境物品を調達するように努めました。

5 当該年度調達実績に関する評価

平成 28 年度は、概ね調達率 100% を達成しました。

今後についても、医療サービス及び研究機能等を低下させない範囲内において、グリーン購入法の趣旨に鑑み、引き続き可能な限り環境物品等の調達推進に一層努めることといたします。

(7) その他環境に関する取り組み

- 省エネルギーへの取り組みとして、以下の節電アクションを掲げ、職員の意識向上に努めております。

[節電アクション]

- ・エアコン設定温度を夏は 28℃、冬は 20℃ とする
- ・クールビズ(軽装期間を設定)・ウォームビズの実施
- ・ドア・窓・ブラインド・カーテンの開閉にて室内のエアコン効率向上を図る
- ・エアコン吹出口付近に物を置かない
- ・使用しない部屋の消灯、昼休み時間中の消灯の徹底
- ・パソコンのスクリーンセーバーなどを解除し、省エネモードにする
- ・離席時のパソコンのフタ締めを徹底
- ・長時間使用しないパソコンの電源をオフにする
- ・プリンター・コピー機の省エネモード

- 省エネルギー、水資源対策として、高効率な設備の積極的な導入に努めております。

[熱源・電力]

●デマンドエネルギー監視システムの導入

- ・契約電力を超えないように常時監視し、警報又はデータを分析し情報提供する事により節電意識を向上させている。

●蛍光灯間引き、高効率照明器具の導入

- ・照明基準に支障がない範囲で廊下・E L Vホール・屋外照明の間引き、非常階段照明の減光を実施。
- ・老朽化により照明器具を更新する場合は、出来る限り高効率照明器具を導入。

●人感センサーの導入

- ・長時間人が居ない廊下・トイレ等に設置する事で消灯忘れによる電力を削減。

●遮熱フィルムの導入

- ・夏の日射による温度上昇を抑制するため、一部ガラス窓に遮熱フィルムを導入している。

●ガスコージェネレーションシステムの導入

- ・常用発電機及び発電による廃熱を利用する事により、節電効果が期待出来る、ガスコージェネレーションシステムの導入を行った。

●低炭素電力の一部導入

- ・二酸化炭素排出量の少ない低炭素電力の一部導入を行った。

[水資源]**●地下水膜ろ過システム導入**

- ・休止状態であった井戸に地下水膜ろ過システムを平成 24 年度に導入完了し、2本の井戸を有効活用して、井戸水の利用促進と上水道使用量の削減及び全体使用量の節水を推進します。